

令和8年産 コメ通信

第9号（令和8年8月21日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

ほ場の成熟程度を確認し、適期の刈り取りを！

1 気象経過と生育状況

【気象経過】



- 7月31日から8月2日にかけて、まとまった降雨があり、最高・平均気温が低くなりました。その後は、8月10日、11日は気温が平年並～低くなりましたが、全体としては、概ね高く推移しました。
- 7月中は降水量が多く、日照時間が少なくなりました。また、東北北部の梅雨明けは、8月4日頃（平年遅7日）となりました。
- 仙台管区气象台発表の1か月予報（令和8年8月22日～9月21日）では、気温が高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みとなっています。

【生育状況】

- 8月20日現在の生育（あきたこまち9地点平均）は、平年と比べ、穂数が多くなりましたが、1穂あたりの着粒数が少なくなったため、 m^2 あたりの着粒数は平年並となっています（表1）。
- 定点調査ほの出穂期は7月28日（平年差－2日）、管内全体の出穂期は8月1日となりました。出穂の状況はほ場間差がみられました。
- 出穂が早かったほ場では、籾の黄化が進んでいます。出穂後の気温が高めに推移しているため、特に出穂が早かったほ場では、成熟期は早まると予想されます。刈り遅れによる品質低下を招かないよう、早期に収穫体制を整えましょう。

表1 定点調査結果（8月20日）

	穂数 (本/ m^2)	葉数 (葉)	着粒数		出穂期
			(粒/穂)	(粒/ m^2)	
本年	485	13.1	69.0	33,222	7/28
平年	455	12.9	72.4	32,846	7/30
前年	448	12.9	74.7	33,469	7/27
平年比	107%	+0.2	95%	101%	－2日
前年比	108%	+0.2	92%	99%	+1日

※平年は過去10か年の平均値を示す。

成熟期は早まると予想されます。刈り遅れによる品質低下を招かないよう、早期に収穫体制を整えましょう。

2 今後の水管理

- 登熟の向上を図るため、出穂30日後までは間断かん水を実施し、土壤水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壤水分が不足しないように注意します。
- 落水時期は、出穂30日後頃を目安とし、稲の登熟度やほ場の作業性等を考慮してください。玄米の充実を図るため、可能な限り落水時期を遅らせて、稲体活力の維持を図ってください。

3 主要病害虫の防除対策

【斑点米カメムシ類】

- 7月28日に病害虫防除所から注意報が発表されています。出穂期24日後頃にキラップ剤(使用時期は収穫14日前まで)またはエクシード剤(同7日前まで)を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布してください。
- 草刈りを行う場合は、稲の収穫2週間前以降に行います。
- 飼料用米でも、2回目の防除を行ってください。

4 刈取適期の予測

- 刈取適期は品種や栽培方法によって異なります。本年は出穂後の気温が高めに推移しているため、成熟期が早まる見込みです。以下の刈取適期予測を参考に、ほ場をよく観察し、籾の熟色(籾の黄化程度90%)や枝梗の黄化程度から総合的に判断して、適期を逃さないよう注意してください。

【刈取適期の予測方法】

- ①出穂後の日数
早生種(あきたこまち等): 出穂後45日頃
中晩生種(めんこいな等): 出穂後50日頃
- ②出穂後の積算気温(表2)
早生種: 950~1,050℃
中晩生種: 1,050~1,150℃

表2 出穂期ごとの積算気温到達日

	950℃ (平年)	1050℃ (平年)
7月25日	9月3日 (9月4日)	9月7日 (9月8日)
7月30日	9月8日 (9月9日)	9月13日 (9月14日)
8月5日	9月15日 (9月17日)	9月21日 (9月22日)
8月10日	9月23日 (9月24日)	9月28日 (9月30日)

※8月19日以降、平年値で計算

5 お知らせ

カドミウム汚染米発生を防止しましょう！！

- 「あきたこまちR」以外の品種を作付しているほ場では、出穂前後3週間の湛水管理を必ず実施してください。
- J A・主食集荷商業協同組合加入業者以外の集荷業者や消費者へ直接販売する場合は、出荷前にロット調査によるカドミウム分析を各自で実施してください。



詳しくは↑

熱中症に注意！！

今後も気温が高くなることが想定されます。農作業中に熱中症になる人が増えています。こまめな休憩や水分・塩分の補給、帽子・空調服の着用などの対策で、熱中症を予防しましょう。



(↑ 詳細)

ツキノワグマに注意！！

※出没警報は9月30日まで延長となりました。

人の生活圏でのクマの目撃件数が増加しています。

農作業時は、対策グッズを用意するなど、十分に注意しましょう。



ツキノワグマ情報 | 英の国あきたネット
www.pref.akita.lg.jp

問い合わせはJ Aまたは農業振興普及課まで～次回発行は9月上旬頃～